

みつぎ便り

133号
10月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年10月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

サンカクイ

「サンカクイ」って聞いたことありますか。あまり耳にしませんよね。むしろ、知らないと言う方のほうが多いのではないのでしょうか。でも見次公園に存在しているのです。

場所は、高速五号線側にある池の水のオーバーフロー用排水口あたり。いつも水に浸っている岸辺です。高さ五十センチ程度で根元から先端までに節がなく、先の尖った先端より下から花が横に出るような独特な姿をしています。これこそ、昼表に用いる「藺(い)草」の姿に似ている、茎の断面が三角形をしているところから「三角藺」と呼ばれる湿地性の多年生単子葉植物です。

名前も姿もイグサに似ているのですが、カヤツリグサ科という別種類に区分されています。また、仲間にはフトイ(太藺)、シカクイ(四角藺)などの名を持つ植物もあります。なお、イグサは「トウシンソウ(燈芯草)」とも呼ばれ、和蠟燭(わろうそく)の燈芯の素材と用いられたそうです。(利)



アカテガニ

池の北側に流れる小川にカニが少なくとも二匹生息しています。日本固有種で淡水域に生息するカニはサワガニだけですが、調べましたらここに生息するカニは、アカテガニと思われまます。どなたかが海岸や川辺でとらえたものを小川に放したものだと思われまます。

アカテガニは、本州から南西諸島に分布し、海岸や川辺に多く生息しています。食性は雑食性で、動物から植物まで何でも



食べまます。アカテガニは、カニの中でも乾燥に強い種類ですが、エラ呼吸もしますのでわずかな水で生きていくことができます。天敵はタヌキやサギ類で、雑食性なので、見次公園は生存に適した地だと思われまます。ただし、卵から孵化(ふか)したばかりの幼生の成長には海水が必要なので、公園にメスがいたとしても繁殖は難しいでしょう。冬には、巣穴の底に潜んで冬眠してしまいまますので、ここ一〜二ヶ月がアカテガニを見ることのできるチャンスとなります。(薫)